

Gard Alert 東南アジアにおける海賊行為が増加中

こちらは、英文記事「[Piracy in SE Asia still on the increase](#)」（2015年8月24日付）の和訳です。

以前、「[Gard Alert：東南アジア海域で増加する海賊行為と燃料の窃盗](#)」（2015年1月2日付）で、東南アジアにおける小型内航タンカーのハイジャック件数が2014年に増加したことをお伝えしましたが、今回はその続報です。先般、国際商業会議所（Chamber of Commerce [ICC]）・国際海事局（International Maritime Bureau [IMB]）と、アジア海賊対策地域協定（the Regional Cooperation Agreement on Combating Piracy and Armed Robbery against Ships in Asia [ReCAAP]）のアジア情報共有センター（ReCAAP ISC）がそれぞれ発表した2015年半期レポートの中で、同地域における海賊のハイジャック件数が引き続き増加傾向にあり、2週間に1回程度の頻度で発生していることが報告されています。



ReCAAP ICSによると、2015年1月～6月にアジアで発生した船舶に対する海賊行為と武装強盗事件の件数は前年同期と比較して18%増加した模様です。同地域での事件の大半は停泊中の船舶に対する小規模な強盗事件やマラッカ・シンガポール海峡（Straits of Malacca and Singapore [SOMS]）を航行中に発生した軽窃盗ではあるものの、過去12～15か月でハイジャック件数が増加していることには注意が必要です。積荷の強奪を目的としたハイジャック件数が2013年以降一貫して増加しており、今年は過去最多となっています。また、ICC IMBの半期レポート¹によると、2015年の第2四半期だけでも東南アジア海域で5隻の小型タンカーがハイジャックされています。特に、5,000GT未満のプロダクトタンカーやオイルタンカーから燃料やオイルを強奪するケースが増加しています。2015年1月～6月の期間に合計で8件の強奪事件がReCAAP ICSに報告されました（前年同期の発生件数は5件でした）。リスクインテリジェンスによると、最近では、より大きめのタンカーが被害を受けるようになっており、被害を受けたタンカーのトン数は平均で4,899 DWTでした（2014年から増加）。直近のハイジャック事案は、マレーシア海域付近で3,500MTの小型タンカーJOAQUIM号が8月8日に遭遇したもので、Marine Gas Oil (MGO) が強奪される被害が発生しています。²

ハイジャック事案のパターンは共通点が多く、ほとんどの事件はマラッカ・シンガポール海峡周辺の混雑したエリアに集中して発生しています。海賊の団体の多くは、ナイフや銃で武装した10～12人の男で構成されています。海賊が燃料を強奪している間（数時間から一昼夜）、船員らの身柄が拘束されるケースが多いようです。2015年前半に発生した最も深刻なハイジャックは、2015年6月に13人の武装海賊がORKIM HARMONY号を襲撃し、船員1名が大腿部を銃で撃たれた事件です。伝えられるところによると、海賊は気付かれずに船に乗り込み、ブリッジを乗っ取ってAISシステムの機能を停止させたということです。そして船の外板の色を塗り替え、船名も変えて特定されないようにしていたようです。この事件は、海賊事件が大型化・巧妙化していることに加えて、暴力による被害を受ける危険性があることを示しています。また、今回の事件を契機として、扱いにくいプロダクトを積載した船を狙った海賊行為が増加しつつあった最近の傾向に終止符が打たれ、リスクの低い船舶・貨物へと襲撃対象が変わる可能性があります。同船は1週間後に発見され、8人の海賊が逮捕されました。³

¹ International Chamber of Commerce 「[Maritime piracy report reveals continued SE Asian attacks against small tankers](#)」（2015年7月22日付）

² MarineLink.com 「[Singapore Tanker Found Without Cargo near Indonesia](#)」（2015年8月9日付）

³ MarineLink.com 「[Hijacked Tanker Located in Cambodian Waters](#)」（2015年6月18日付） および 「[Malaysia Tracks Down Hijackers](#)」（2015年6月23日付）

推奨事項

航行中の監視のみならず、特に停泊中も海賊対策のための監視の継続が重要であることを、今一度ご認識ください。強盗は、大抵の場合、乗組員に気付かれると侵入を断念します。したがって、海賊や強盗

の船舶への侵入を防ぐには、特に夜間の乗組員による警戒と対応準備を行うことが重要となります。とりわけ小型タンカーについては、同海域での警戒を継続し、襲撃を受けた場合や襲撃の試みに遭遇した場合（ボート等の不審な動きを含め）には、現地当局や沿岸国に直ちに報告し、適時の支援提供を受けられるようにしてください。また襲撃や不審な活動については、クアラルンプールの24時間対応のIMB PRCとReCAAP ISCに報告してください。

過去のAlertでもお伝えしたとおり、以下を実施するようにしてください。

- リスク評価を実施して、脅威の特性や予定航路の見直し、船舶の脆弱性や防衛手段の検討、乗組員の能力や訓練レベルの診断を行うこと。
- 特定されたリスク水準に基づいて措置を実施すること。懸念される海域を航行する際には、警戒をさらに強め、監視を厳重にして怠らないこと。船員に標準的な見張り手順に習熟させ、海賊対策の訓練や手順の演習を実施すること。
- 停泊中および夜間には、
 - 船舶の周囲を十分に照らし、投光照明の電源を入れておくこと。
 - 小型漁船に対する警戒や、船舶に接近してくるボートに対する警戒を怠らないこと。見張りのため追加の甲板員（通信支援用具を所持させる）を配置すること。
 - 船首側の保管庫は厳重に二重の施錠をするよう徹底し、消火ノズルなど真鍮の器具は、できれば船舶の主要保管庫や居住区の保管庫などの安全な場所に保管すること。
 - すべての事件を、港湾局（VHF 経由）または沿岸警備隊（チャンネル 16 経由）に報告し、IMB PRCにも報告すること。
- 部外者への情報漏洩を防ぐための業務手順を見直すこと。乗組員が窃盗共謀の容疑がかけられている事件もあります。

ベストマネジメントプラクティス（[BMP4](#)）は、ソマリアを拠点とする海賊への防御を目的に作成されたものですが、その見解や推奨事項の多くは東南アジアにも該当します。これらの推奨事項に従うことにより、安全水準の向上・維持と、不要なリスクの回避が図れるようになります。マラッカ・シンガポール海峡で発生した半数以上の事件において、乗組員に気付かれた強盗は何も盗らずに退散したことが報告されています。

報告および追加情報

海賊や強盗の手口に対する理解を深め、必要かつ適切な海賊対策を講じることができるよう、情報の共有に努めていただくことを強く推奨します。海賊行為や武装強盗事件に遭遇した場合は、ボートやスキフの不審な動きを含め、必ず下記に報告してください。

- 国際海事局海賊情報センター（マレーシア、クアラルンプール）の24時間対応海賊対策ヘルプライン
Tel: +60 3 2031 0014 / +60 3 2078 5763 / +60 3 2031 0287 / +60 3 2031 3106, Fax: +60 3 2078 5769, E-mail: imbkl@icc-ccs.org / piracy@icc-ccs.org
web: <https://icc-ccs.org/piracy-reporting-centre>
- アジア海賊対策地域協力協定情報共有センター（シンガポール）
Tel: +65 6376 3063, web: <http://www.recaap.org>

予防策に関する詳細情報は、ReCAAP ISC の特別レポート「[Incidents of Siphoning of Fuel/Oil at Sea in Asia](#)（アジア海上での燃料やオイルの抜き取り事件）（英文）」（2014年7月）を参照してください。

BMP4 を含むその他の情報は、Gard ウェブサイトの Topics ページ内の「[Trading area risks](#)」（英文）をご覧ください。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。